

(1) 潮の干満

海には潮の干満があります。月と地球は互いに引っ張り合いながら動いており、これを「引力」と呼んでいます。引力は互いの距離が近いほど強くなり、離れるほど弱くなります。月と地球は万有引力で引き合っていますが、距離が一定に保たれているのは月と地球との相互連動による遠心力が働くためです。この遠心力は地球上のどこでも同じ大きさです。この遠心力と引力の合力が潮の満ち干きを起こす力となっています。地球は1日1回自転していますので、満潮と干潮はそれぞれ2回起こることとなります。

また、地球には月と太陽の両方の引力が働いており、双方の力が合わされば潮の干満は大きくなります。具体的には、太陽と地球と

月が一直線上に並び 新月の周期前後と満月の周期前後では、引力が重なって大きくなります。すると、海面の上下動が大きくなるの

で大潮となります。上弦と下弦の月のときは、月と太陽の引力が互いに消し合うので、海面の上下動が小さくなり小潮となります。



▲ボランティアの解説するタッチングプール

タッチングプールではボランティアの解説のもと、生物を見るだけでなく、手にとって観察することができます。

(2) 潮だまりとは

潮の干満により周期的に出現を繰り返す水たまりのことを潮だまり(タイドプール)といいます。干潮時に外海から隔離されてできる潮だまりは、形、大きさ、海からの距離など、どれ1つとして同じものはありません。磯とそこにできる潮だまりにすむ生き物たちを四季それぞれに観察すると、そこにすむ生き物たちの生きていくための興味あるさまざまな姿を見ることができます。



▲タッチングスクール

タッチングプールに隣接したコーナーにおいて、磯の生きものをテーマにしたワークショップを開催しています。